

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年4月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671100214
法人名	有限会社 グループホーム加世田
事業所名	グループホーム 加世田
所在地	鹿児島県南さつま市加世田本町50番地20 (電話) 0993-52-6066
自己評価作成日	令和5年12月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年に開設した当事業所も平成27年の夏に新築移転を行って8年半が経ちました。散歩などがしやすい落ち着いた場所にあります。希望や状態に応じて畳の和室、安心や快適さを感じられる浴室浴槽の作り、重度の要介護度となっても、ここで過ごすことが選べるトイレの作りや廊下の広さとなっています。ここで働く職員は、ご利用者様の個別な意向やストレスなどにもよく耳を傾けて、排泄状態などの生理的なものにもよく注目観察して情報共有をしています。花見や七夕、秋のお出かけ、クリスマスやお正月など、季節のイベントに加え、1人1人のご利用者様のお誕生会を大事にしています。皆様が楽しみにしている食事に関しては、お米やお味噌、水などの食材にも拘りを持っています。料理が苦手な職員もいますが、不慣れな者も年配者からのアドバイスを受けながら少しずつ成長を心掛けているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体医療機関と医療連携体制が整っており、定期的な往診や常勤の看護師も配置しており、医療面における本人・家族の安心となっている。また、家族の意向に沿って看取り介護にも取り組んでいる。
- ・地域との関係性が良好で、自治会の清掃活動や資源ごみ当番、地域防災訓練に地域の一員として参加しており、事業所の避難訓練は自治会の協力も得て実施している。
- ・管理者が社会福祉協議会主催のボランティア講座の講師を務めたことから、地域からの傾聴ボランティアや有償ボランティア・園芸ボランティア等の受け入れに繋がっている。
- ・管理者は副管理者やユニット長と共に実施している運営会議を活用し、職員の提案を業務に反映できるように努めている。また、休憩時間の確保や年休取得・職員の個々の事情に応じた勤務形態等を配慮し、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業者理念の総意として、「ご利用者様に淋しい思いをさせない」ことを常に意識している。ミーティングや申し送りの場を使い、気付いたことを話し合うように努めている。	理念をリビングに掲示し、ミーティング時に確認・共有してケアに当たっている。朝の申し送りや毎月のユニットミーティング時にケアの振り返りを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	資源ごみ当番や清掃作業への参加、また地域の方から祭りの参加の呼びかけをよくいただいている。地域の方からは温かく見守って戴いている。	自治会の資源ごみ当番や清掃活動に地域の一員として参加協力している。地域の祭り見物や高校生の実習及びボランティアの受け入れ、住民から野菜の差入れ等、住民との交流に積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	市内外の高校から施設実習を受け入れている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策のため、書面での運営会議が続いたが、その際も対面のときと変わらず、当施設のご利用者様やサービスの実際について報告を行い、意見を伺いながらサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を書面または対面で開催し、事業所の状況報告及び意見交換を行っており、書面開催の場合は資料郵送後に書面で意見等をもらっている。事業所への理解を得る機会であり、意見をサービスの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	南さつま市との関係は、その担当者の協力もあって、より良いサービスの質の向上に繋がってきている。	市の担当者とは、かねてから市の依頼で認知症地域推進員やケア会議・サポーター養成講座の運営等を引き受ける等、協力関係を築いている。市主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は一丸となって、身体拘束をしないケアの実践に努めている。事業所内研修などで身体拘束について学ぶ機会がある。また、拘束になるのか疑問に感じたときはその都度、話し合ったり、アプリなどで学んでいる。	指針を作成しており、委員会及び研修会を3ヶ月に1回実施している。ユニットミーティングでの事例検討や薬物管理についての研修で職員の理解を深めている。玄関は施錠せず、外に出たい利用者には見守りや散歩に同行し、安全管理に配慮しながら行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内研修で虐待防止をテーマに挙げ、テキストや動画を利用し、学習の機会を設けている。普段から全職員、虐待防止を心掛けている。言葉による虐待もあるため、意識し気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内研修でテーマに挙げ、テキストや動画を利用して学ぶ機会を設けている。またミーティングなどでも話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用者様やご家族には十分な説明を行っている。また説明の後に、なるべく契約書はご自宅へ持ち帰っていただき、よく確認してから同意を頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が面会に来られた時などに、様々な意見を聞くことがある。出された意見や要望に関しては、申し送りやミーティング、連絡帳を利用して情報を共有している。また内容に応じて、管理者へ報告、運営会議で取り上げるなどしている。	日常会話で利用者の要望を聞き、食事やおやつに取り入れたり個別のドライブ実施や、家族の協力を依頼することもある。家族には、電話・面会時に要望を聞き家族の納得が得られるよう努めている。朝食をパン食に変更したり、昼食を自宅で食べるようにした事例もある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見や提案は、申し送りやミーティング時だけでなく、その都度聞いている。管理者へ報告し、内容に応じて運営会議で取り上げ、反映させている。	職員の提案等は月1回のユニットミーティングで聞いており、必要時はユニット代表等の運営会議で検討して反映させている。個人相談はユニット長や副管理者が受け、必要時に管理者に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者及び管理者は、職員個々の特性や事情に応じて勤務調整を行っており、働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、事業所内研修など、スキルアップの機会を設けている。また、オンライン研修会などの機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は常に近隣の同業者と連絡を取り合っている。職員もオンライン研修会への参加をし、サービスの質の向上へ取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、ご本人の不安や要望に耳を傾けているが、認知症状の進行程度によっては、ご本人からだけでは難しいことも多いため、ご家族や関係機関などからの情報も戴き、関係づくりに努めている。また、観察しながら声掛けをし、不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に、殆どのケースでご家族からの相談がある。ご家族の言葉に耳を傾け、出来る限り不安を取りいていくことで、安心して利用できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や関係機関の情報から、必要とされる他サービスがあると考えたときは、他サービス利用の提案を行ったり、手続きをするなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	負担のない範囲で可能な家事をしていただいたり、昔ながらの知恵を教えていただくことも多い。その際、感謝の言葉を伝えるようにしている。共生しているということを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も働いておられる方が多いが、できる範囲で物品を購入して持ってきていただいたりしている。受診付添に関しても相談している。また毎月、写真付きで近況をお知らせし、共に支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会や外出など制限されることも多かったが、状況に応じてその都度面会体制も整え、関係性が途切れないよう努めている。他ユニットに知り合いがいればお連れしている。	家族との居室や玄関での面会交流を支援し、外出・外泊は感染状況を見ながら対応している。馴染みの美容院や墓参りに家族が同行したり、自宅訪問や以前利用していた認知症カフェに職員が同行することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性をみながら、座席の位置を考慮したりしている。トラブルになることはあるが、その都度、職員が間に入り、関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方でも、安心して他の病院や施設に移れるよう、必要に応じて同行し支援を行ったケースがある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段から、ご利用者様との会話の中で、ご利用者様の希望や意向に耳を傾けるよう心掛けています。困難な場合は、ご本人の立場になって考え、職員間で情報共有している。	日常会話で本人の思いを把握できるように努めており、支援ノートを活用し職員間で情報を共有している。困難な場合は、家族や職員の情報を参考に本人の状況を見て推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前にご本人やご家族、関係機関からの情報収集を行っている。その後も会話の中からなど、様々な情報を職員が共有できるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が、各ご利用者様の現状を統一して認識されるように記録したり、変化があれば申し送りや連絡帳を利用し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の発言や行動などを日々、記録し、ミーティング以外でもケアに関して職員間で意見を出し合っている。また、ご家族や利用している他サービス機関からも意見や情報を聞くなどして、介護計画を作成している。	職員の意見を基に原案を作成し、家族の思いを参考に介護計画を作成している。モニタリングを月1回実施し、計画の見直しは6ヶ月毎及び状況変化に応じて、現状に合った介護計画にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「経過記録」に、普段と違うことや発見があったとき、また日々のレクリエーションや役割参加なども記録し、情報共有している。これらを介護計画の見直しに活かしているが、細かい変化に気付けないこともあった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスになることが多いが、多様な状況とニーズに応えるべく努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通院リハビリが必要な方、認知症専門医か脳神経内科の受診、また精神科デイケアが必要な方など、それぞれに対応がとれている。またボランティアが来所し、将棋や苗植えを実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際、ご本人やご家族の希望の病院の有無を確認している。職員が同行を行ったり、受診時間の調整を病院との間で行ったりしている。状況に応じて、家族への同行協力依頼もしている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、母体医療機関を希望している。かかりつけ医の往診や受診を職員が支援しており、必要時は家族の同行を依頼している。看護の有資格者も在籍しており、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が1名在籍している。ご利用者様に異変を感じたときは報告し、指示を受けている。ご利用者様や職員が抱える不安の相談相手となり、また病院との橋渡しの役割りを担ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院当初には必ず入院計画（治療計画）を確認するようにしている。こまめな入院状況の確認、家族を交え3者によってできるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始時に、重度化したときなどにホームができること、できないこと、「延命事前要望書」の説明をしている。また、可能な限り責任を全うすることを約束している。様々な状況と状態があったが、その都度に医療機関などの協力をいただき、誠実な対応にあたってきた。	契約時に、重度化等の場合の対応について選択肢も含めて説明し、同意書をもらっている。重度化の場合、医師から家族に病状説明の際に管理者が同席し、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って、医師・訪問看護師等と協力して支援しており、看取り介護の事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修などで緊急時に備えたテーマを挙げ、対応できるよう努めているが、実践力としては未熟な部分もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練（日中1回、夜間1回）を実施している。その内の日中1回は、自治会の方々と合同の避難訓練を行い、ご利用者様の避難誘導の協力を頂いている。	年2回昼夜想定で避難訓練を実施し、1回、昼想定時に消防署の立ち合いを受けており、自治会の参加協力もある。年1回、地域防災訓練にも参加しており、地域との協力関係を築いている。非常用の備蓄は、各ユニットで3日分の水やレトルト食品・缶詰等の食料及びカセットコンロを準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉選びなど意識してはいるが、慣れによる遠慮のない言葉かけや礼儀を欠くこともある。その直後や毎月実施するミーティングの機会を利用し、全員で見つめ直しを行っている。	研修を実施し、丁寧な言葉遣いで馴れ馴れしくならないように努めている。入室時やケア実施前に声掛けし、排泄介助は羞恥心に配慮し、入浴支援での希望者への同性介助等、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望のものを献立やおやつに、また週末には飲み物を選んでもらうドリンクデーを取り入れている。レクリエーションや役割も本人の意志で決定するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望のままに受け入れることは難しく、不自由を感じておられる方もいると思う。だが、出来る範囲で希望に添えるようにしている。常に私たちの課題として受け止めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	選べる方には着たい服を選んでいただいたり、季節に合った服装ができるよう支援している。身だしなみを心掛けているが、不足している面もあった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか聞いて献立に加えたり、ご利用者様の誕生日には、その方のリクエストメニューをお出ししている。野菜の皮むきや混ぜる作業、味見など、座ってでもできる準備などを行っている。	献立は利用者の希望を入れて職員が作成し、個々に応じた食事形態で提供している。利用者も一緒に下ごしらえやテーブル拭きをしている。誕生日の好物やケーキ、行事食、外注の弁当、刺身を取り入れる等で、食事を楽しんでもらえるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下の状態、好み、食器の選定など、個々に応じた支援をしている。摂取量は毎回記録して、把握している。水分確保のため、飲みたいものや、飲みたい時に随時、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや介助など、それぞれに合わせて行っているが、毎食後には行えていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状況の変化により、その都度、支援方法の見直しをしている。排泄リズムなどは個別に把握し、パットの種類なども個別の対応を図っている。1人介助で困難な場合は2人介助を行い、トイレでの排泄を行っている。	日中は、全員トイレでの排泄であり、移乗ロボットも使って支援している。排泄パターンに応じた時間誘導で排泄の失敗が減少した事例がある。個々に適切な排泄用品を検討し使用している。夜間のみ、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録による状態把握や水分補給、運動の促進、乳製品の活用など必要な方には毎日行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	お風呂は週に3回支援している。概ね入浴日は決まっている。希望の曜日とはいかないが、タイミングや温度、浴槽につかる時間などは、できる限り個々の希望に沿うように努めている。拒否があるときは、翌日にずらすなど対応している。	週3回午前中を基本に入浴を支援しているが、希望等で柔軟に対応している。浴槽使用が多く、希望でシャワー浴や同性介助を行っている。入浴を嫌がる場合は、日時の変更や声掛けを工夫して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間や入床時間、室温など、一人ひとりの生活習慣に合わせて、その時々状況に応じて配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量を把握し、しっかり服用できるよう支援している。薬の変更等があったときは、特に変化に気をつけている。精神科処方薬などは、事細かな記録をもとにして、かかりつけ医との慎重な検討を重ねている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の中で、短時間でも役割やレクリエーションが行えるように意識し、「経過記録」に記録している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日や希望に添って外出支援をしたいとは思っているが、コロナ禍もあり、季節の行事など、あらかじめ予定を組んでの外出支援になることが多かった。積極的な外出支援を課題として認識している。	天候の良い日は近隣の散歩をしている。年間計画を作成し、初詣や花見・コスモス見物・弁当持参で海浜公園に出かけており、希望等で個別にドライブも行っている。家族と墓参り等で外出する利用者もある。今後は感染状況を見ながら、徐々に個別支援を増やす計画である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会は殆どないが、手持ちのお金を持つことで不安感が紛らわされる方などが数名おり、家族と相談し、それぞれに対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば電話の支援を行っている。携帯電話を持参されている方も数名いる。また、家族に手紙を送ってもらうよう依頼をしたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフは利用者が音や光、温度などの刺激によって居心地の良さが左右されることをよく理解している。また季節の花や、季節に応じた作品を飾っている。	リビングは空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境を調節し、窓を開けて換気も行っている。花や作品・カレンダーで季節の飾りつけを行い、利用者にメダカの飼育もしている。利用者が思い思いに和室やソファ等でくつろげるよう見守っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の座席については利用者間関係性に配慮をしている。また、そっとしておいてほしいと思われる姿を見かけたときには、そのお気持ちに沿うようにもしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものやお気に入りの物など、本人や家族によって持ち込みがされている。写真などを飾ったり、少しでも安心できる環境作りに努めている。他者からは、幾分散らかっている様にみえても、その方が本人の居心地が良ければ、最低限の片づけのみを行うようにしている。	畳とフローリングの居室があり、ベッドやダンスが備えてある。本人は使い慣れた寝具やテレビ・机・パソコンを持ち込んだり、遺影や写真・ぬいぐるみ等の大事にしている物を身の周りに置き、安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えば、トイレについては個別の状態、場所の見当識や歩行能力に応じた居室の配置にし、トイレだと分かる目印をつけている。洗面台のコップを置く位置も、自立できるように高さに配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない